



韓国留学

2011年12月

総合管理学部

0930023

藺牟田 安奈

ありがとう、韓国

瞬く間に時間が過ぎ、早くも帰国の時を迎えました。

韓国の大学は3月～6月が一学期、9月～12月が二学期という半年近くを長期休暇として過ごすスタイルなので学校生活が本当にあっという間です。

3月から今まで、たくさんのことがありましたし一日一日がものすごく濃かったです。

留学報告書が長い間滞っていたので5月以降の出来事をハイライトでお届けいたします。

夏・秋・冬

① 夏休み

夏休み中（6月下旬から8月末）はソウルの江南で過ごし、コシウォンという二畳程度のとても狭い部屋に住んでいました。

6月には友人と慶州（경주:キョンジュ）を旅行しました。

7月と8月は、平日の午前中に毎日韓国語の塾に通いました。

夏休み中、祥明大学校日本語文学科の皆さんをはじめ多くの方々がいろいろなところへ連れて行ってくれたため、ソウルはもちろん韓国の地理に強くなりました。

この頃には物事に一人で挑戦することも多くなり、刺激的な時間を過ごしていました。

また、日本の友人も韓国に遊びに来てくれました。

② 夏休みの写真

慶州旅行



左上 太宗武烈王陵：新羅時代の王様のお墓
 中央 瞻星台(첨성대:チョムソンデ)東アジア最古の天文台
 左下 仏国寺(불국사:ブルグクサ)慶州の有名な仏教寺院
 右下 多宝塔(다보탑:タボタップ)10ウォンの表に描かれている

ソウルでの日々



漢江 Nソウルタワーにて
 市場 演劇鑑賞

結婚式 清溪川
 溪谷 ハロ-キティカフェ

③ 二学期

長かった夏休みも終わり、ついに二学期が始まりました。

夏休み中は約束をして会っていた友人たちにただ学校に通うだけで会うことができるという状況は、私にとってまさにテーマパーク状態でした。一学期にも増して時間の経過が早く感じられ、明日また学校に行くことが楽しみでありながらも、過ぎ行く一刻が惜しくもありました。

二学期以降は、交友範囲がさらに広がりました。日本語のできない人を相手にしてもある程度は会話ができるようになったからです。熊本県立大学からは2回、学生たちが訪問する機会がありました。私の日本の友人もたくさん遊びに来てくれました。



韓国留学を振り返って



一年生の時の第二外国語の授業をきっかけに韓国の言葉や文化に興味を持ち始め、文化探訪団として初めて韓国を訪れてからは、韓国で生きる人々にも惹かれるようになりました。その後も様々な形で韓国と関わる機会があり、日本にいることに物足りなくなった私は留学を決めました。韓国で過ごした 10 か月間は、向上と発展、驚きと感動の連続で、笑顔に満ち溢れた毎日でした。また、なにもかもが勉強で、外を歩くことも、テレビを見ることも、友達と話すことも、買い物も、どこからか聞こえてくる会話さえも、目を開けるだけ、ただそこにいてだけで、それら全てが確実に私の成長につながっていきました。

一年間お世話になった日本語文学科の先生方、学生のみなさんは私にとって家族のような存在で、そこには安心感と信頼、言葉にできない温かさや居心地のよさがありました。この年に留学ができ、たくさんの素敵な方々に出会えたことは本当に幸せなことです。

2011 年は人と人とのつながりの大切さを改めて感じた一年でした。

留学の決意を受け入れて送り出してくれた両親や、いつも応援してくれ韓国まで会いに来てくれた日本の友人たち、温かく迎え入れてくれて常に大切にしてくださった日本語文学科の先生方や学生のみなさん、いろいろなところでお世話になった全ての方々に、心から感謝をしています。私は多くの人に支えられ、韓国留学を素晴らしい形で終わらせることができました。前向きに学び、積極的に挑戦すること、常に明るく元気であることがどれほど大切かを知ることができました。考え方も変わりましたし、自分の中で大切にしていかなければならないものにも気づくことができました。したいことを思い切りさせてくれる恵まれた環境にあることにも感謝しています。たくさんの幸せを全身で感じる事ができました。

留学自体は終わってしまいましたが、私の中では「終わった」というよりはむしろ「ここからが始まりだ」という希望に溢れています。